

春・夏野菜の土づくり(石灰の使い方)

春・夏野菜を作るための土をしっかりとつくる時期です。

連作障害を凌(しの)いでいくためにもしっかりと丈夫な土をつくりましょう

(植え付け2週間前)

- ① 苦土石灰を $100\text{g}\sim 200\text{g}/\text{m}^2$ まんべんなく撒く
- ② 石灰苦土と土がよく混ざるように鍬(くわ)などでよく耕す
→ 良く耕すことによって苦土石灰と土の pH(ペーハー)が安定し
作物に合った栄養分が吸収されやすくなる
また、よく耕すことによって土の中に隙間ができ、水のとおりや空気のとおりがよくなり、根が元気になります。

(植え付け1週間前)

- ③ 石灰が土によく馴染んでから、
完熟堆肥を 1 m^2 あたり $2\sim 3\text{kg}/\text{m}^2$ 撒く
- ④ さらに元肥として、化成肥料を $100\text{g}\sim 200\text{g}/\text{m}^2$ 撒く
- ⑤ 鍬(くわ)などですべての資材が土とよく混ざるように耕す
- ⑥ 最後に表面を軽くならします。

注) 石灰と堆肥・元肥を一度に施用するとどうなるか……

石灰と肥料を一度に入れると肥料の窒素成分が石灰のアルカリ分と反応し、窒素成分が反応して気体になり、窒素ガスとして空気中に出ていってしまい、肥料分が無駄になる

ナス、トマト、ピーマン・トウガラシなどのナス科野菜を植え付ける時の注意

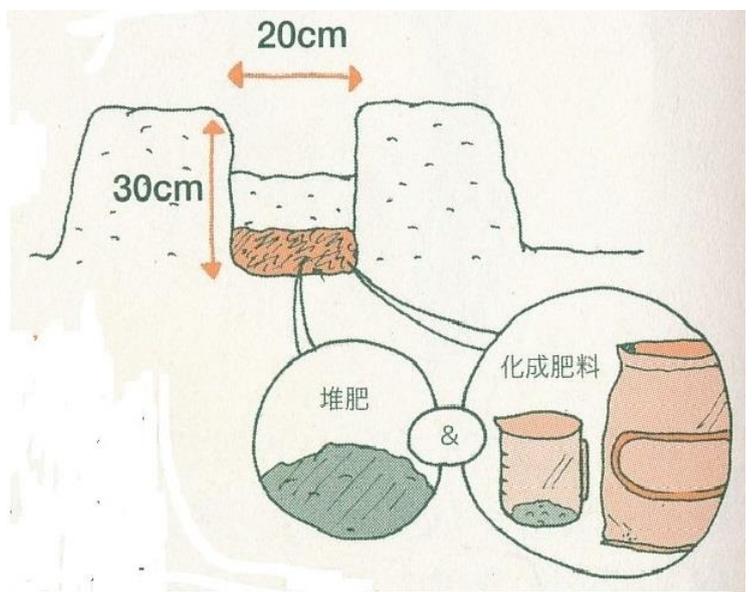
(植え付け1週間前)

堆肥と元肥を施用する時、畝に 30cm (できれば深いめ)の溝を掘り、堆肥と元肥を入れて土を埋め戻す

(堆肥・元肥は植え付け
面積 1 m^2 あたりと同じ)
(長丁場で、根が深く広く
伸びていくため)

※キュウリなどのウリ科野菜は根が浅く広がるので堆肥・肥料は全面に施用して耕します。

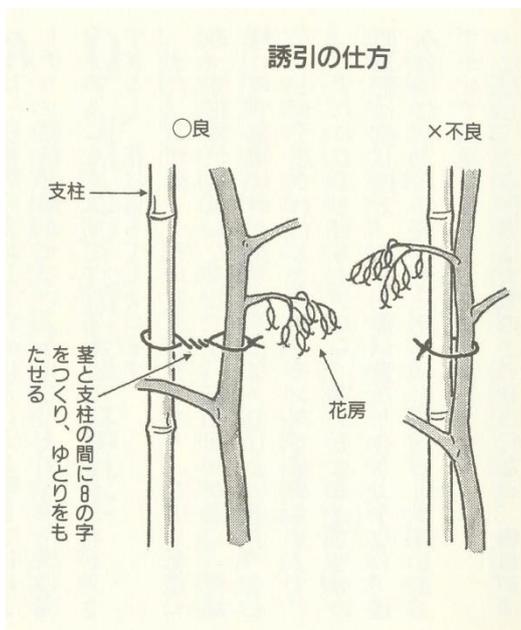
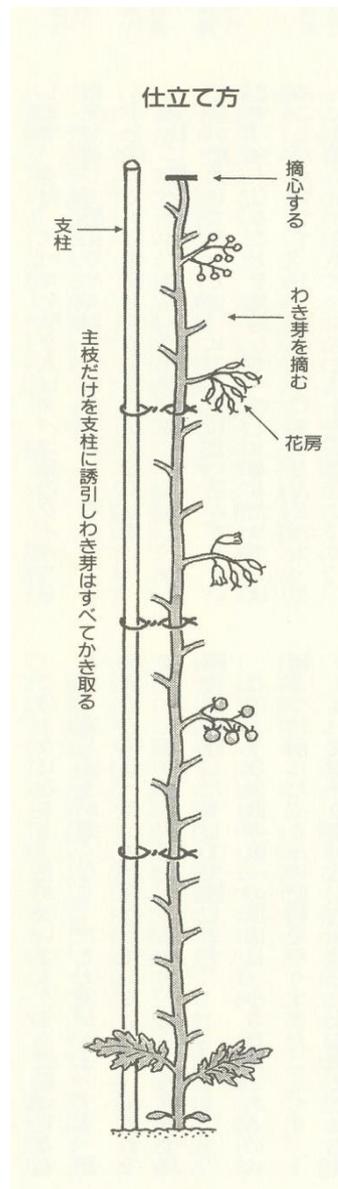
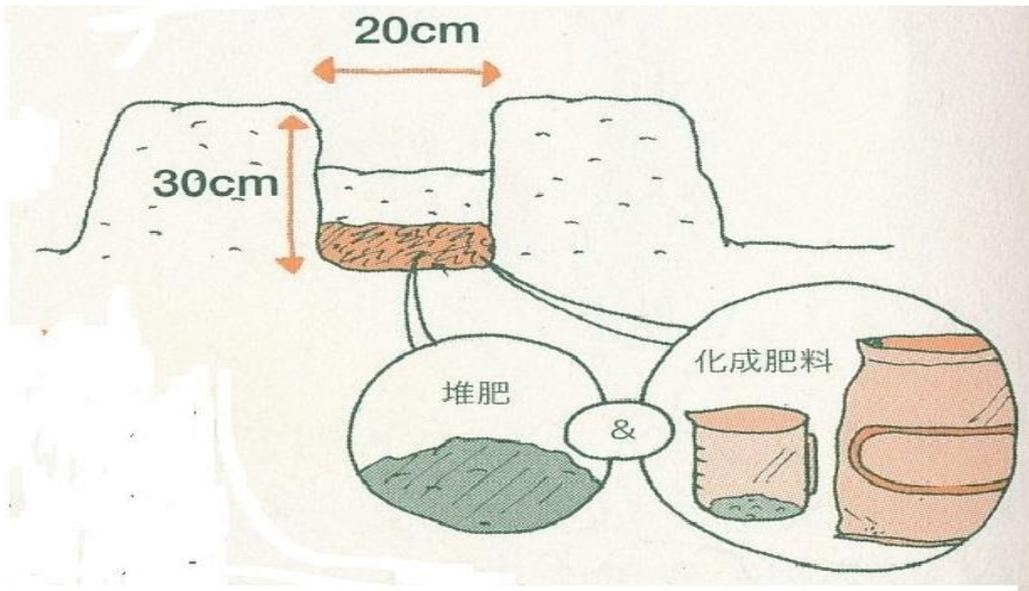
トマト・ナス・トウガラシの堆肥・
元肥施用(石灰施用後1週間)



トマト (ナス科) <定植>

特 徴	原産地は南米のアンデス山系のペルー、エクアドル、ボリビア 日当たりがよく、 <u>水はけのよいところを好みます</u>
定植時期 収穫時期	<u>5月上旬～中旬</u> 6月下旬～
土の準備	2週間前 苦土石灰：100g/m ² (最適 pH：5.2-6.5) 1週間前 発酵牛糞堆肥：3kg/m ² 数日前 化成肥料(8-8-8)：100g/m ² 畝の高さ：20cm
定 植	株間隔： 40-50cm 苗は、茎が太くて節と節の間が短く、 根張りがよいものを選ぶ ※ 蕾がつき始めた苗が植え時 花房はすべて同じ側につくので収穫し易い方向に揃えて植え 付ける コンパニオンプランツとして植え穴にネギの仲間を一緒に植え 付けておくと、立枯れ病にかかりにくくなる ◎植え付け時にバケツに水を張り、苗をポットごと浸けて底か ら給水させて植え付けると活着がよくなる
定植後の 管 理	水 遣 り：植え付け後は根付くまでしっかり水をやる 追 肥：定植2週間後から1回 30g ずつ施す。 脇芽かき ：植え付け後 10日ほどで根付き、脇芽が出てくる。 原則として脇芽は摘み取り、原則一本仕立てにする 支 柱：苗が伸びてくると 1.5-1.8mの支柱を立て、誘引 する そ の 他：花房が5~6段付いたら上の葉を2枚残して生長点 を摘み取る(芯止め)
病 気	密植して風通しが悪くなると、葉かび病が発生しやすくなる。
そ の 他	コンパニオンプランツとしてネギの仲間がある (ネギ、ニラ、ワケギなど)

- ・施肥の目安 (堆肥：スコップ1杯：2kg、苦土石灰1握り：約40g、
化成肥料1握り：約30g、1つまみ：約2g)



ナス (ナス科)

特 徴	インド東部原産 日当たりがよく、水はけのよいところを好みます。 肥料と水を多く必要としますが、うまく栽培すると、秋まで 長期にわたり収穫できます 「ナスは水と肥料でつくる」
定植時期	5 月上～中旬が最適 収穫は 6 月中旬～
土の準備	2 週間前 耕起 : 20cm 苦土石灰 : 120g/m ² 最適 pH : 5.5-6.8 1 週間前 発酵牛糞堆肥 : 3~4kg/m ² 数日前 化成肥料(8-8-8) : 200g/m ² 畝の高さ : 20cm
定 植	株間隔 : 50cm ○苗は 本葉が 5~6 枚に育ったものを植え付ける (植え付け間隔が狭いと風通しが悪くなり、病気にかかりやすくなる) ○株元にネギの仲間(ネギ、ニラ、ワケギなど)を植えておくと、立枯れ病にかかりにくくなる(植え穴と一緒に植える)。
初期管理	水遣り : 定植後たつぷり、その後は乾いた時 追 肥 : 植え付け後 15~20 日後に化成肥料を 50g/m ² 施用 仕立てかた : 本葉が 8 枚に育つと 8 枚目に一番花が咲き、脇芽が出る ・ <u>3 本仕立て</u> : 花のすぐ下と、もう一つ下の脇芽を残し、主枝と合わせて 3 本仕立てにする。それより下の脇芽は取り除く。この時支柱をする。 ・ <u>2 本仕立て</u> : 花のすぐ下の脇芽を残し、主枝と合わせて 2 本仕立てにする。それより下の脇芽は取り除くこの時支柱をする。
中間管理	追 肥 : 苗がしっかり根付いたら週に 1 回液肥を与え (希釈 1000 倍程度)、肥切れしないようにする <u>敷きわら</u> : 支柱を立てた時に、乾燥や雨による土のはね返りを防ぐため、敷きわらなどをする。

- ・ 施肥の目安 (堆肥 : スコップ 1 杯 : 2kg、苦土石灰 1 握り : 約 40g、化成肥料 1 握り : 約 30g、1 つまみ : 約 2g)

元肥のやり方

○ナス科野菜を植え付ける時の注意

(ナス、トマト、ピーマン・トウガラシなど)

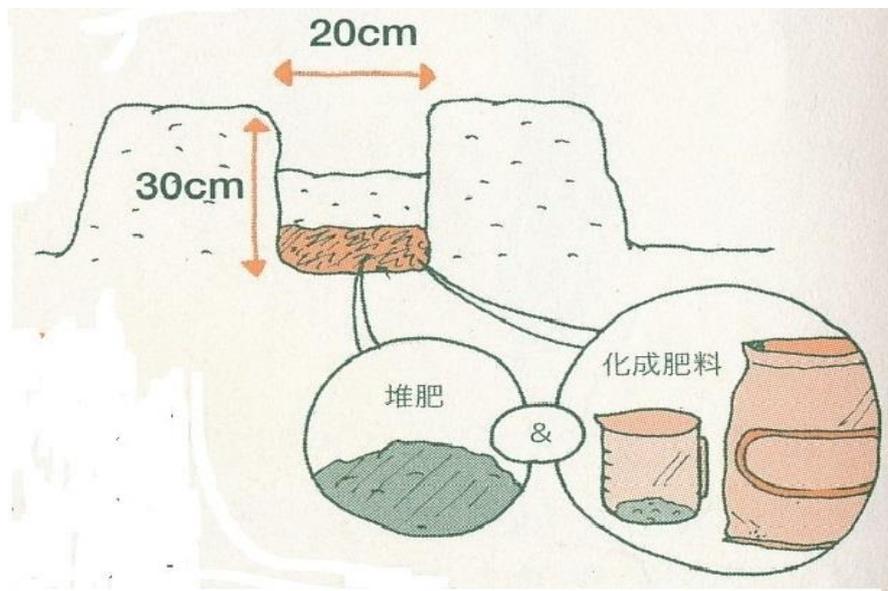
(植え付け1週間前)

堆肥と元肥を施用する時、うねに 30cm(できれば深いめ)の溝を掘り、堆肥と元肥を入れて土を埋め戻す

(堆肥・元肥は植え付け面積 1㎡あたりと同じ)

(長丁場で、根が深く広く伸びていくため)

※キュウリなどのウリ科野菜は根が浅く広がるので堆肥・肥料は全面に施用して耕す。



支柱立て



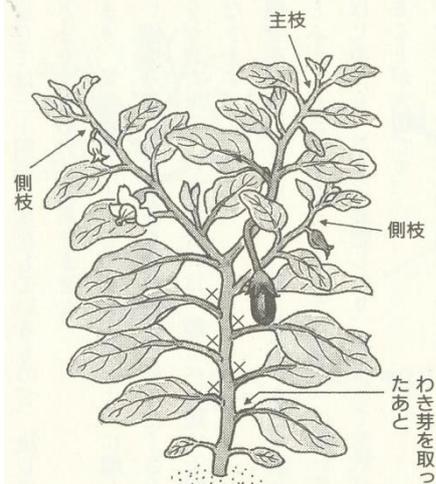
1mぐらいの支柱を立て、主枝をゆるくしばり、固定して倒れないようにします。

整枝 (3本仕立て)



多くでるわき芽は摘みとり、1番花の下から出る側枝だけ2本残し、他のわき芽はすべて摘みとります。これを3本仕立てといいます。

整枝後の姿



<<夏野菜の初期管理>>

菜園に初めて参加される方に向けての注意点です。
これまでに別の菜園を経験された方にはおさらいです。

<4月中旬の作業>

—入園説明会の資料で示した肥料の施用量を守ってください。

・肥料過多になると

ナス：定植後に日照不足や低温が続けば、肉質が固く食べられない石ナスになります。

トマト：生育が旺盛になり、花が着かない事や果実が重合し乱形果ができやすくなります。

- ・施用の基準量は、㎡当り苦土石灰 100 g 程度、化成肥料 (8-8-8) 100 g、堆肥 3-4 kg 程度です。
- ・しかしナスの場合は深く耕すことで 3 割増しの元肥量にします。
⇒ナスは栽培期間が長く、花数が多いため深層の栄養分を多く必要とするため。
- ・定植の 1 ヶ月後、開花、着果と続いた頃から追肥の始めます。
- ・キュウリは成長が早いため天気が良ければ毎日の水置きと、2 週間ごとに追肥をします。必ず、肥料切れを起こさないようにします。

<4月下旬の作業>

※5月上旬まで苗を植えるのを待ってください。

早く植えると、遅霜でトマト、ナス、キュウリ、スイカは枯れます。

- ・早く植えたい方は霜除けのキャップや小トンネルや肥料袋使った防霜の準備が必要です。
- ・ナス、キュウリは特に日当たりと水分が必要です。
- ・スイカ、カボチャ、メロンは広い場所が必要です。
- ・支柱の設置は早い目に (4月下旬頃が良いでしょう)。
定植後の支柱は、5月の後半まででいいのですが、作成作業で苗を踏んだり

するので、植える前に作成しておいた方が良いでしょう。

・支柱の長さは

土中に埋める長さを 30 cmとし、手が届くため

- ・ トマト、ナス、キュウリ : 200 cm~180 cm程度
- ・ ピーマン : 150 cm程度

の長さが必要でしょう。

<5月上旬の作業>

一定植のポイントは 「苗選びと植え方と水おき」が大切です。

・ 苗選び

- ①葉や株がひよろひよろしていない ②双葉が残っている
 - ③第1番目の花が咲き始めている ④根が鉢底から出ていない
 - ⑤葉の表裏を見て虫（ダニ、アブラムシ）や病気（ウドンコ病）がない
- キュウリは元気な双葉で、本葉が4枚程度、鉢底の根が白い苗を選びます。

・ 定植の前日

開花中の花の勢いをつけるために苗の株元に水をおきます。

・ ポットにはいった苗の抜き方

ポットの底にある穴に指を差し入れて片方に手に移し替えます。

・ 植え方

抜き取った苗の根がまいていれば、根を手で少しほどきます。

根が巻いていなければ、片方の手で土を掘り苗を埋め込みます。

土を少し盛り上げ形にした株元の土を手で押さえこみます。

土を押さえる理由は土を締めて水分蒸散を抑えるためです。

盛り上げる理由は、緩んだ株元の土が沈み雨水や灌水の水が株元に溜まらない様にするためです。

トマト、ナス、ピーマンの植える方向は収穫する側に花が向くようにします。

・ 接ぎ木をした苗の定植

接ぎ木した所を土中に埋めないようにします。

・ 植えた後のすぐの水置き

葉や茎や花に直接水をかけるのは避けます。

盛り上げた土の周りの根が伸びている位置にたっぷり水を置きます。

株に水がかかると柔らかくなり風で折れやすくなります。

・ 根が動き始めた印は、植えた 3-4 日後の早朝に水滴が葉先に出てきます。

・ 苗を植えた後は必ず風対策のため 支柱が必要です。

定植後すぐは根が張っていないため、特にトマトやキュウリは雨風に叩かれ株が折れやすい。

支柱と枝へのひものかけ方は 8 の型にして、大きくなる茎に食い込まないようにかけます。

もし本支柱ができていない時は、割りばし程度の短い仮支柱をして風対策をして、本支柱ができて誘引した後に、仮支柱ははずします。

<5 月中旬の作業>

—伸びてきた脇芽や花の処理。

○ トマト

・ 各葉から出てくる脇芽は、小さい内に手で引くようにして除去し **1 本仕立て**とします。

・ ハサミは病気が移る危険性が高いので手を使った方がいいです。

ハサミを使う場合は切るごとに洗います。

・ トマトは支柱がなければ重い果実を維持できず、立ち上がれません。

・ 手の届く高さで風に倒れないしっかりした 200 cm 程度の支柱が必要です。

○ ナス

・ 1 番目の花の上と下の葉から出てくる脇芽を伸ばして側枝とし、主枝と合わせて **2 本仕立て**か **3 本仕立て**の株にします。

・ 日当たりの確保のため、主枝から出てくる他の脇芽は除去し側枝化を防ぎます。

・ ナスは支柱がなくても立ち上がりますが、9 月下旬までの収穫を目指すなら風害や日当たりの確保のために 200 cm 程度支柱が必要です。

○ キュウリ

・ 黄色い色のウリハムシが食害し株が枯れるので、苗を植えた後に防虫、防寒のために肥料袋などで周囲と上部を囲う対策が必要です。

- ・定植後の根張りを優先するために第 5 葉まで出てくる子づるは除去します。その後の 6 葉から上の葉から順次出る子づるは、つるから出た 1 番目の花を収穫し、花の先の 1 葉を残しこのツルの先を止めます。
- ・キュウリのつるがからみ風害をさけるため、長さ 200 cm 程度の支柱とツルをからめる網の作成が必要です。

○ピーマン

- ・ピーマンは根張りが弱いため最初に出てきた **1 番目の花は除去**します。
- ・ピーマンは支柱がなくても立ち上がれます。ただ根張りが小さく弱いため、風による倒伏防止と日当たり確保のため 150 cm 程度の支柱が必要です。

○害虫編

- ・キュウリでは黄色い色の**ウリハムシ**が数匹で、若い葉や茎を毎日食害して定植後 10 日ぐらいで枯れることがあります。植えた後、肥料袋上下を開けて 4 本の棒で行燈状にして周囲と覆い、上部も透明なビニールで覆い防虫、防寒の対策が必要です。
- ・トマト、ナス、ピーマンは**アブラムシ**がつきやすい。まず、アブラムシはキラキラしたものを避けるので、銀テープ等を野菜の周辺に置く。葉裏を観察して少数であれば手でつぶし、発生が多ければ他の野菜に移るために薬剤で防除します。

5 月下旬以降は

○植え付け 1 ヶ月後になると、草が生え枠内の土が締まり、枠底に根が届きます。

○暑さに耐えて、5 月下旬以降から種まきや苗の植え込みができる夏野菜は

- ・枝豆：枝豆用の品種を選び、鳥害が推定されるならポットで発芽させます。
- ・トウモロコシ：受粉には他の株の花粉が必要なため 10 株以上が必要です。
- ・他にゴマ、シソ、オクラ、ゴーヤ、サツマイモなどの夏野菜もよく育ちます。

5 月下旬以降から日差しが強くなりますので、健康に気を付けてください！

夏野菜の初期管理

4月中旬から5月中旬までの夏野菜の育て方のポイントです。

○初夏収穫の、エンドウやソラマメ、イチゴは着果、果実肥大のために土壤水分が必要なので株元の乾燥軽減のためにマルチ(イナワラ、モミガラ等)をひいて下さい。

<4月中旬の作業>

○土づくりのための、石灰や元肥は下記の基準量を参考にしてください。

- ・前作の肥料が残っていたり、施肥量が多すぎると、日照不足や低温の条件下ではナスは肉質の堅い石ナス、トマト・スイカでは花が着かない事や果実の形や品質が悪くなる事が起きます。
- ・基準量は、m²当たり苦土石灰 100g 程度、化成肥料(8-8-8)100g、堆肥 3-4kg です。
残存する肥料成分があれば元肥量を 2 から 3 割を減らします。
- ・接ぎ木苗は肥料を吸う力が強いので、元肥量は 2~3 割減らします。
- ・長期間栽培のナスは、追肥をしても栽培後半に生育が衰える事があり、堆肥と元肥量を 3 割程度増やし、畝底まで深く耕しておきます。

<4月下旬の作業>

○霜よけや支柱の準備の時期です。

- ・早く植えた苗は霜除けのキャップや小トンネルや肥料袋使った防霜の準備は必要です。夏野菜は霜に当たれば枯れますので。
- ・霜注意報が出ていないかを、昼食後の天気予報に注意してください。
- ・支柱の設置時期は定植後の仮支柱もあり 5 月中でも間に合いますが、支柱を設置する時に植えた株を踏み痛める事がありますので、定植前に設置しておいたほうがいいでしょう。

	株間	支柱の長さ
トマト	30~40cm	200~180cm
ナス	60cm	200~180cm
ピーマン	30~40cm	180~150cm
キュウリ	50cm	200~180cm

<5月上旬の作業>

○**定植の注意** 「苗選びと植え方と水の置き方」が大切です。

- ・ナスとキュウリは病害対策で接ぎ木苗が無難です。
- ・トマト、ピーマンは昨年病害や線虫がでていなければ自根苗でいいと思います。

【苗選び】

ートマト、ナス、ピーマンの選びたい苗は

第1花咲き始めて双葉が残り、根が鉢全体に巻いていない苗です。

また葉の表や裏を見て**病害虫のない事**も確認します。

ーキュウリの選びたい苗は

乾燥で弱りやすいので**双葉が痛んでいなくて本葉が3枚程度の若い元気な苗**。また葉の表や裏を見て病害虫のない事も確認します。

- ・苗の根の状態を見て巻いていれば外側の巻いた根をほぐして植えます。
- ・接ぎ木苗は**接ぎ木した所を土中に埋めない**ようにします。
- ・植える方向は、基本収穫する側に向けて苗を植えます。

- ・苗の植え方ー苗を盛った形で植えて株元の土を手で押さえます。
株を少し盛り上げ土を押さえる理由は、株元のゆるんだ土が沈み株元に水が溜まるのを防ぐためと、土を掘ったためゆるんだ土を締めて水分蒸散を抑えるためです。
- ・植えた後の水置きー葉や茎や花に直接水をかけるのは、苗が柔らかくなるため避けてください。盛り上げた土の周りの根が伸びている位置に水を置いてください。
- ・根が動き始めた印はー植えた3-4日後の早朝に葉先から水滴が出てきます。
- ・苗を植えた後は必ず風対策用の仮の支柱が必要です。特にキュウリやトマトは茎の外皮が柔らかく風で折れやすいためです。
- ・根づいて茎が伸びだせば支柱に誘引します。

【害虫編】

- ・キュウリでは黄色い色のウリハムシが数匹で、若い葉や茎を毎日食害して定植後10日ぐらいで枯れることがあります。
植えた後、肥料袋上下を開けて4本の棒で行燈状にして周囲と覆い、上部も透明なビニールで覆い防虫防寒の対策が必要です。

- ・ トマト、ナス、ピーマンは**アブラムシ**がつきやすい。
先ず、アブラムシはキラキラしたものを避けるので、銀テープ等を野菜の周辺に置く。
葉裏を観察して少数であれば手でつぶし、発生が多ければ他の野菜に移るために薬剤で防除します。

<5月中旬の作業>

○果菜類の脇芽や花の取り扱い

- ・ 5月初夏の気候で夏野菜はぐんぐん伸びはじめます。
 - トマト**—各葉の脇から出てくる脇芽は小さい内に手でつまんで除去し1本仕立てにします。
ハサミを使うのはウイルスが感染する恐れがあるので避けます。
 - ナス**—1番目の花の上下の葉から出てくる脇芽を利用し主枝と合わせ2本仕立てか3本仕立てにします。
それ以外の主枝から出る脇芽は除去します。
ナスは枝や果実にトゲが出ている時があるので長袖や手袋を着用しましょう。
 - キュウリ**—一定植後の根張りをよくするため第5葉までに出た脇芽を除去します。その上に出てくる側枝となる子ツルは伸ばし、先端の2葉を残しツル先を止め第1果は収穫します。
 - ピーマン**—根張りが弱いため最初に出てきた1番目の花は除去します。
また一時に実を成らせすぎると根が老化し枯れてきます。
花が多く咲けば花を除去し樹勢を保つようにします。

<5月下旬の作業>

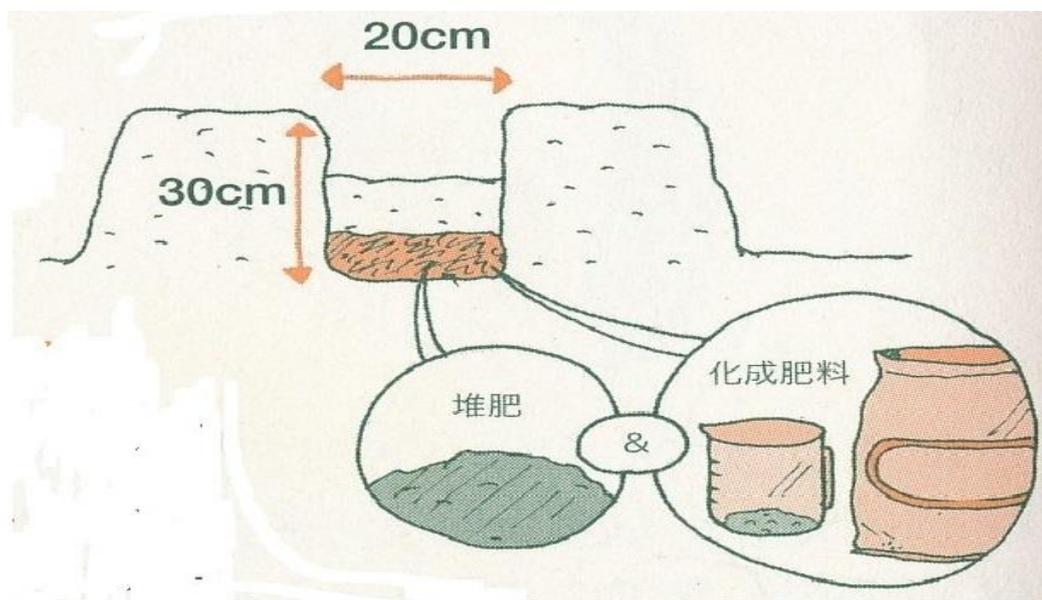
○地温が上がり、高温を好む他の夏野菜の種まきや苗を植えることができます。

- ・ トウモロコシは受粉には他の株の花粉が必要なため最低10株以上を育ててください。
- ・ 大豆は短日にならないと花ができないため、枝豆の収穫では日の長さに鈍感な枝豆用の品種を選んでください。
- ・ この時期からはサツマイモ、シソ、オクラ、ゴーヤなどの野菜もよく育ちます。

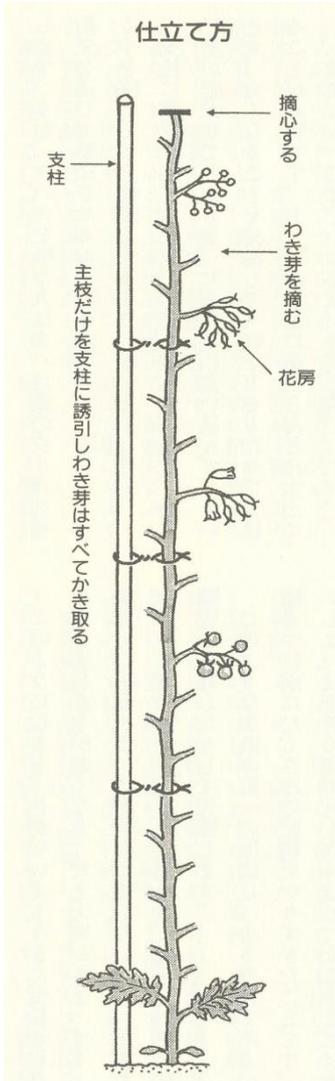
暑くなりますので水分補給はこまめにし、疲れれば陰で休憩を！

トマト（ナス科）＜定植＞

特 徴	原産地は南米のアンデス山系のペルー、エクアドル、ボリビア。 日当たりがよく、水はけのよいところを好みます。
定植時期 収穫時期	5月上旬～中旬 6月下旬～
土の準備	2週間前：苦土石灰：100g/m ² 、最適 pH：5.2-6.5 1週間前：発酵牛糞堆肥：3kg/m ² 数日前：化成肥料(8-8-8)：100g/m ² 畝の高さ：20cm
定 植	株間隔：40-50cm 苗は、茎が太くて節と節の間が短く、根張りがよいものを選ぶ。 蕾がつき始めた苗が植え時。 花房はすべて同じ側につくので同じ方向になるように植え付ける。 コンパニオンプランツとして植え穴にネギの仲間と一緒に植え付けておくと、立枯れ病にかかりにくくなる。 ○植え付け時にバケツに水を張り、苗を浸けて底から給水させてから植え付けると。活着がよくなる。
定植後の 管 理	水 遣 り：植え付け後は根付くまでしっかり水をやる 追 肥：定植2週間後から1回30gずつ施す。 脇芽かき：植え付け後10日ほどで根付き、脇芽が出てくる。 原則として脇芽は摘み取り、原則一本仕立てにする。 支 柱：苗が伸びてくると1.5-1.8mの支柱を立て、誘引する そ の 他：花房が5-6段付いたら上の葉を2枚残して生長点を摘み取る(芯止め)
病 気	密植して風通しが悪くなると、葉かび病が発生しやすくなる。
そ の 他	コンパニオンプランツとしてネギの仲間がある (ネギ、ニラ、ワケギなど)



コンパニオンプランツ



トマト×ラッカセイ(トマトと同じ南米高原原産)

- ・夏の極端な乾燥を防ぐ。余分な水分をラッカセイが吸収する。
- ・追肥をしなくてもラッカセイ(マメ科)が空気中の窒素固定をする
- ・根の深さが違う(トマトは深根、ラッカセイは浅根)ので競合しない
- ・この場合トマトの株間を 60cm はとる。

ラッカセイは日が当たるようにトマトの株間からずらして種をまく。

ナス (ナス科)

特 徴	インド東部原産 日当たりがよく、水はけのよいところを好みます。 肥料と水を多く必要としますが、うまく栽培すると、秋まで長期にわたり収穫できます。 「ナスは水と肥料でつくる」
定植時期	5 月上～中旬が最適 ※苗を急いで植え付けない。 収穫は 6 月中旬～
土の準備	2 週間前：耕起：20cm 苦土石灰 ：120g/m ² 最適 pH ：5.5-6.8 1 週間前：発酵牛糞堆肥 ：3～4kg/m ² 数 日 前：化成肥料(8-8-8)：200g/m ² 畝の高さ：20cm
定 植	株間隔：50cm ○苗は本葉が 5～6 枚に育ったものを植え付ける。 (植付け間隔が狭いと風通しが悪くなり、病気にかかりやすくなる) ○株元にネギの仲間(ネギ、ニラ、ワケギなど)を植えておくと、 立枯れ病にかかりにくくなる(植え穴と一緒に植える)。
初期管理	水遣り：定植後たっぷり、その後は乾いた時 追肥：植え付け後 15～20 日後に化成肥料を 50g/m ² 施用する。 仕立てかた：本葉が 8 枚に育つと 8 枚目に一番花が咲き脇芽が出る ・ 3 本仕立て の場合：花のすぐ下と、もう一つ下の脇芽を残し、主枝と合わせて 3 本仕立てにする。それより下の脇芽は取り除く。この時支柱をする。 ・ 2 本仕立て の場合：花のすぐ下の脇芽を残し、主枝と合わせて 2 本仕立てにする。それより下の脇芽は取り除く。この時支柱をする。
中間管理	追肥：苗がしっかり根付いたら週に 1 回液肥を与え(1000 倍程度)、 肥切れしないようにする 敷きわら：支柱を立てた時に、乾燥や雨による土のはね返りを防ぐため、敷きわらなどをする。

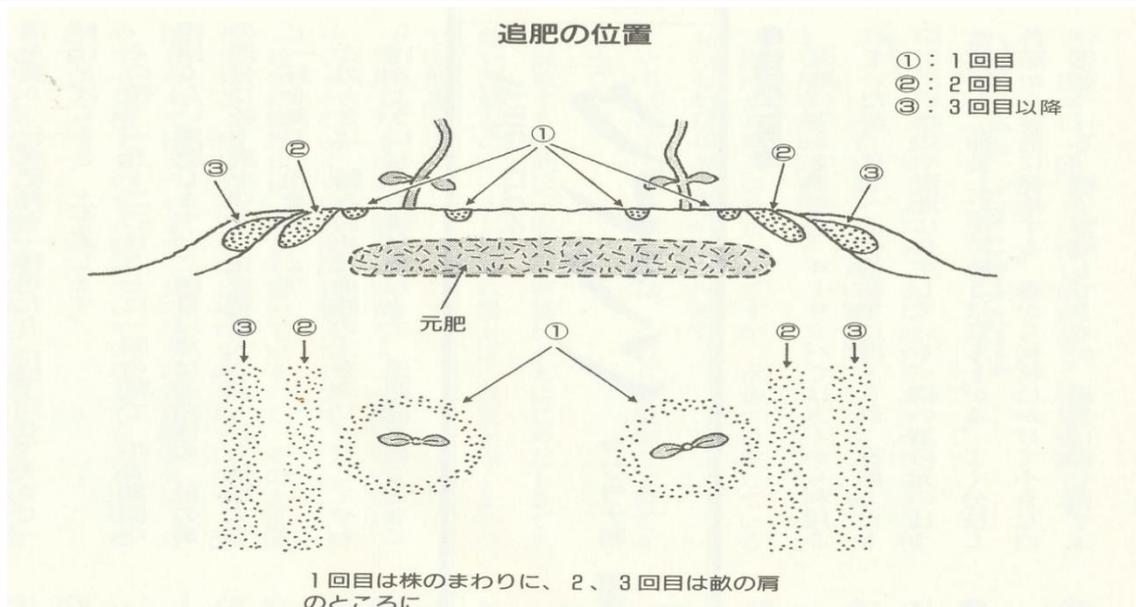


植え穴にニラかネギを一緒に植え付ける



キュウリ (ウリ科) <定植>

特 徴	キュウリの原産地はインド北部のヒマラヤ山脈の南部山麓。 日当たりがよく、水はけのよいところを好む。
定植時期 収穫時期	5月上旬～中旬 7月～8月
土の準備	1ヶ月前：耕起：20cm、苦土石灰：100g/m ² 最適 pH：5.5-6.5 2週間前：発酵牛糞堆肥：3kg/m ² 数日前：化成肥料(8-8-8)：100g/m ² 畝の高さは15cm うね全層に肥料を入れる
定 植	株間隔：50～60cm ○植え付け時にバケツに水を張り、苗を浸けて底から給水させてから植え付けると。活着がよくなる。 こうすると、植え付けてから1週間は水をやらなくてよい。
定植後の 管 理	① 本葉が5～6枚の頃に巻きづるが出るのでネットを張る。 つるはネットに絡みついて伸長する。 ② 本葉が3～4枚までに出た「子づる」はすべてかきとる。 それ以降の本葉から出た子づるは葉を2枚(2節)残して摘芯する キュウリは生育が早いので肥料切れしないようにする。 草丈が70～80cmになったら半月に一度、肥料を与える。
害 虫	ウリハムシ
病 気	うどんこ病 は葉が白くなりかけたら 重曹の1000倍液 を撒布するとよい。 土壌病害のつる割れ病はネギ(ニラ)と一緒に植え付けることで発病しにくくなる。
その他	コンパニオンプランツ⇒キュウリの植え付け時にネギの仲間(ネギ、ニラ、ワケギなど)を株元に一緒に植えると生育がよくなる



○夏野菜苗の購入・植え付けは急がない！

◎今年是天候が不順です。

野菜苗を買う時期は、5月の連休まで待ちましょう！
植え付けは連休以降でも充分間に合います。

○夏野菜はもともと暖かい地方原産のものが多いです。

5月になって、暖かくなってから、苗を植え付けると、土の温度も上がって、根もはやく元気になっていきます。

早く、植えて、失敗するより、暖かくなってから植えた方が生育がよくなります。

施肥の目安

堆 肥	スコップ1杯で約2kg
苦土石灰	1握りで約40g
化成肥料	1握りで約30g
(その他)	1つまみで約2g